

令和7年度の重点課題

○学校全体

・「握力」の数値が低くなっている。

○男子

・運動やスポーツを「ときたま（月に1日～3日）」または「しない」と答える児童の割合が10%である。

・「長座体前屈」において、県平均値かつ全国平均値より低い。

○女子

・運動やスポーツを「ときたま（月に1日～3日）」または「しない」と答える児童の割合が15%である。

・「体育の授業は楽しいですか」の回答に対して、否定的な児童が10%いる。

上記の課題を受けて具体的に
取り組んだ事項

○ACPの実施

・準備運動の中に授業で取り扱う運動領域に応じたACP（アクティブチャイルドプログラム）を取り入れ、児童に運動遊びを通して運動する楽しさや心地よさを感じさせた。

○授業改善

・運動することが苦手な児童が自信をもって授業参加できるように、各学年の実態に応じて、用具や場の設定、ルールの工夫を行った。

・児童がスモールステップで運動に取り組めるように運動のレベル化を図り、どの児童も「できた」「分かった」と感じることができる授業改善に取り組んだ。

○体育イベントの開催

・体づくり運動と関連させて、持久走大会、なわとび大会などのスポーツイベントを開催し、児童の運動意欲を高める取り組みを行った。

○家庭啓発

・体育通信を発行し、家庭でできる運動遊びの紹介等を行った。

令和8年度新体力テストの結果 県平均値（令和7年度）・全国平均値（令和7年度）との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	16.03	20.96	33.14	47.18	51.37	9.65	159.85	24.36	56.38	第5学年	15.80	20.10	36.97	44.07	42.13	9.88	154.93	13.53	57.40

県平均値かつ全国平均値未満

令和8年度新体力テストの結果 県平均値（令和8年度）・全国平均値（令和7年度）との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	16.03	20.96	33.14	47.18	51.37	9.65	159.85	24.36	56.38	第5学年	15.80	20.10	36.97	44.07	42.13	9.88	154.93	13.53	57.40

県平均値かつ全国平均値未満

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか

男子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い	女子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第5学年	77.78	14.81	3.70	3.70	第5学年	56.67	33.33	6.67	3.33

学校独自の意識調査

	運動やスポーツに取り組んでいる（授業以外で）				体育の授業は楽しい			
	ほとんど	まあまあ	あまり	まったく	とても	まあまあ	あまり	まったく
全児童	57	25	14	4	75	18	6	2

重点課題

情意面での課題

○男子

・自主的に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをする時間をもちたいかについて「あまり思わない」と答える児童の割合が10%である

○女子

・自主的に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをする時間をもちたいかについて「あまり思わない」と答える児童の割合が10%である。
・運動やスポーツでできるようになりたいこと（やってみたいこと）について「ない」と答える児童の割合が33%である。

体力面での課題

○男子

・「長座体前屈」「50m走」において、県平均値かつ全国平均値より低い。

○女子

・「長座体前屈」「50m走」において、県平均値かつ全国平均値より低い。

令和9年度の
重点目標値

○「長座体前屈」「50m走」において、県平均値かつ全国平均値以上にする。

○自主的に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをする時間をもちたいの項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上を継続する。

○運動やスポーツでできるようになりたいこと（やってみたいこと）の項目について「ない」と答える児童の割合を15%以下にする。

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

体育の授業で行う取組内容

○ACPの実施

・準備運動の中に授業で取り扱う運動領域に応じたACP（アクティブチャイルドプログラム）を取り入れ、児童に運動遊びを通して運動する楽しさや心地よさを感じさせる。

○授業改善

・児童が主体的にかかわり合う授業にするために、各学年の実態に応じて、用具やルールの工夫を行う。
・児童一人一人が無理なく段階的に挑戦できるよう、自分の技能や実態に応じて選択できる場を設定する。
・児童がスモールステップで運動に取り組めるように運動のレベル化を図り、どの児童も「できた」「分かった」と感じることができる授業改善に取り組む。

体育の授業以外で行う取組内容

○遊びの充実

・毎月2回のロングタイム昼休憩を活用し、外遊びをする機会を設け、児童に体を動かす楽しさや心地よさを感じさせる。

○体育イベントの開催

・体づくり運動と関連させて、持久走大会、なわとび大会などのスポーツイベントを開催し、児童の運動意欲を高める。

○「郷GOタイム」の取り組み

・1か月に1回、全児童で体づくり運動と関連させた体育朝会を開き、児童に体を動かす楽しさや心地よさを感じさせる。

○家庭啓発

・体育通信を発行し、家庭でできる運動遊びの紹介を行う。